

★図・グラフ内の「R○」表記は、すべて「令和○年度」を意味します。

1. 計画策定の背景と目的

本市ではこれまで、水道・下水道の各ビジョンに基づき、安全で快適な生活環境を支える取組を進めてきましたが、近年は施設の老朽化、人口動態の変化、災害リスクの増加、経営環境の悪化などにより、事業運営を取り巻く課題が複雑化しています。

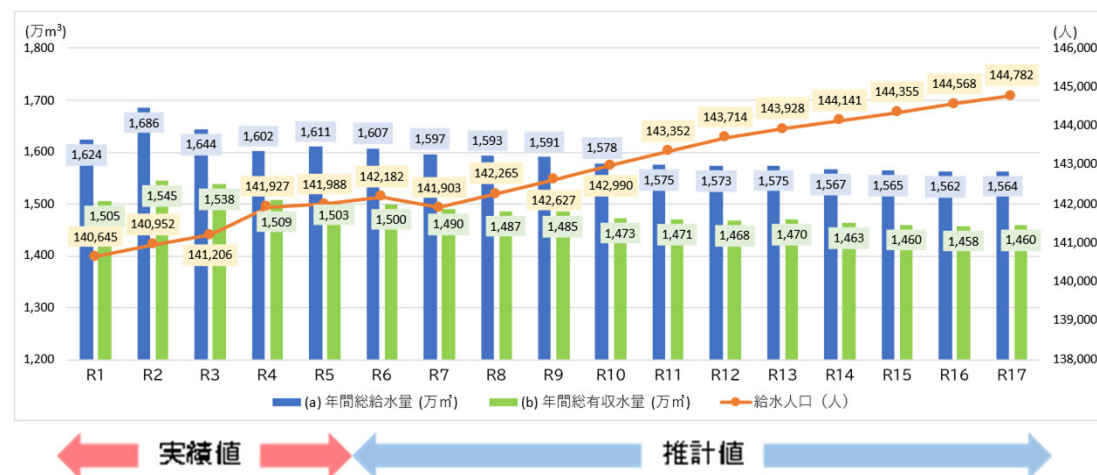
これらの課題に包括的に対応し、上下水道の安全性・持続性・信頼性を将来にわたって確保するため、従来の個別ビジョンを統合し、上下水道事業一体による新たな基本方針・施策の枠組みとして『戸田市上下水道ビジョン』（以下、本ビジョン）を策定しました。

本ビジョンの計画期間は、令和8(2026)年度から令和17(2035)年度までの10年間としています。

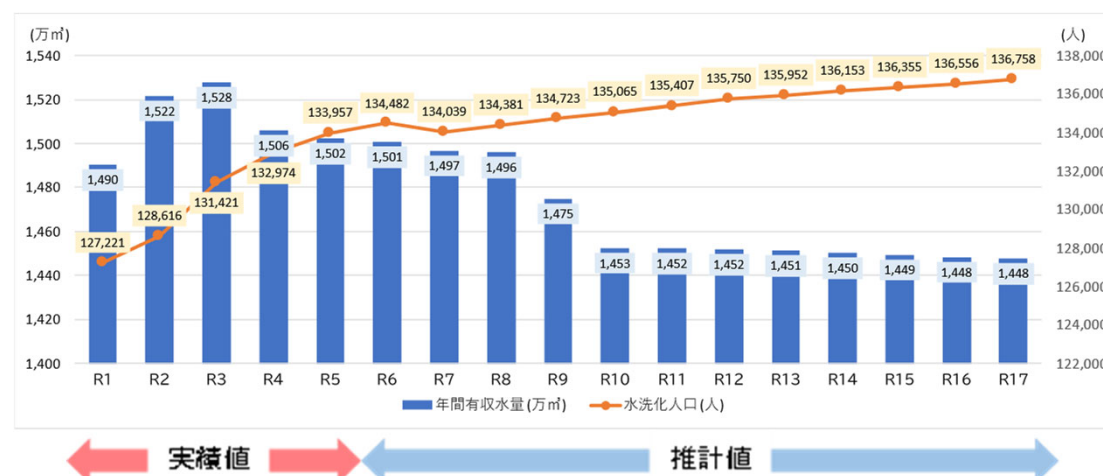
2. 人口及び需要の動向

本市の人口はこれまで増加傾向にありましたが、マンション建設・住宅開発が一巡したこと等を踏まえ、今後の人口増加は鈍化が予想されます。また、水道及び下水道の有収水量は、節水意識の高まりや大口需要者の撤退等に伴い減少する見通しであり、特に下水道でこの傾向が顕著です。

※推計人口は『戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略』におけるベース推計に基づき算出しています。



図【水道】年間総給水量・年間総有収水量・給水人口の推計結果



図【下水道】年間有収水量・水洗化人口の推計結果

3. 上下水道事業の課題整理

本市の上下水道事業の現状を踏まえ、水道事業・下水道事業・上下水道事業の運営の3つの観点から現状及び課題を整理しました。

水道事業の現状と課題

- ・「安全」で安心して飲める水道
- ・災害時でも信頼できる「強靱」な水道

下水道事業の現状と課題

- ・老朽化や災害にも耐える強靱な施設の構築
- ・汚水未整備地区の解消
- ・雨に強いまちづくりの推進
- ・付加価値を活かした健全な水環境の再生

上下水道事業の運営に関する現状と課題

- ・経営の効率化と安定性の確保
- ・非常時対応と災害対策の強化
- ・公共サービス向上と持続可能な運営
- ・市民とのコミュニケーションと上下水道事業への理解促進

課題の整理結果に基づく、観点ごとの重要課題は以下のとおりです。



水道事業の重要課題

1. 老朽設備・老朽管の更新
2. 施設及び管路の耐震化
3. 安全・安心のための水質管理



下水道事業の重要課題

1. ポンプ場の維持管理・改築
2. 管路の維持管理・改築
3. 耐震化・耐水化の推進



水道事業と下水道事業が連携して取り組むべき重要課題

1. 経営の効率化と安定性の確保
2. 非常時対応と災害対策の強化
3. 市民とのコミュニケーションと理解促進

4. 本ビジョンの基本理念・基本方針

上下水道事業を一体的に捉え、共通課題に包括的に対応するとともに、安全で快適な水環境の実現を目指すため、基本理念及び基本方針を以下のとおり定めました。

【基本理念】

水と暮らしを守り快適な未来をつくる戸田市の上下水道

【基本方針】

- I. 安全・安心の確保
- II. 持続可能な運営と環境への配慮
- III. 業務の効率化と市民との連携

5. 施策体系

本ビジョンでは、上下水道事業の持続的な運営を実現するために、3つの基本方針に対応する施策を体系的に整理しました。これらの施策に関する事業について、重点的かつ計画的に推進します。

表 上下水道ビジョン 施策分類表

基本理念	基本方針	施策分類	
水と暮らしを守り快適な未来をつくる戸田市の上下水道	Ⅰ. 安全・安心の確保	上下水道施設の老朽化対策	(1) 施設・設備の維持管理(水道・下水道)
			(2) 管路の維持管理(水道・下水道)
			(3) 浄水場の更新に向けた取り組み(水道)
			(4) 漏水の未然防止への取り組み(水道)
			(5) ポンプ場の改築・更新に向けた取り組み(下水道)
		災害対策の強化	(1) 施設・設備の強靱化(水道・下水道)
			(2) 管路の強靱化(水道・下水道)
			(3) 近隣自治体との連絡管整備の検討(水道)
			(4) 雨水整備の推進による治水機能の向上(下水道)
			(5) 防災への対応体制強化(水道・下水道)
	Ⅱ. 持続可能な運営と環境への配慮	水質管理の強化	(1) 取水施設の適正管理と水需給の安定化(水道)
			(2) 飲料水質管理体制の強化と監視の徹底(水道)
			(3) 水安全計画に基づく運用とリスク管理(水道)
			(4) 放流水質管理と水環境の保全(下水道)
		脱炭素化の推進	(1) ゼロカーボンシティ宣言の実現に向けて(水道・下水道)
			(2) 建設副産物リサイクルへの取り組み(水道・下水道)
		官民連携の強化と地域資源の活用	(1) 民間活力の導入促進(水道・下水道)
			(2) 地元事業者との意見交換と協力の促進(水道・下水道)
	Ⅲ. 業務の効率化と市民との連携	経営基盤強化と財政の安定化	(1) 財政の安定化と持続可能な運営(水道・下水道)
			(2) 経営基盤の強化と効率的な運営(水道・下水道)
			(3) 技術職の高齢化への対応と人材育成(水道・下水道)
		デジタル化(DX)の推進	(1) 施設・管路管理システムの活用による管理の高度化(水道・下水道)
			(2) スマート水道メーターの導入検討とデータ活用(水道)
		市民とのコミュニケーションの推進	(1) 市民への積極的な情報伝達と啓発活動(水道・下水道)

令和8(2026)年度から令和17(2035)年度までの主要事業の実施スケジュールを、下表に示します。老朽化施設の更新や災害対策強化を計画的に進め、安全かつ快適な市民生活に不可欠な上下水道サービスを安定的に維持することを目的としています。

表 主要事業の実施スケジュール

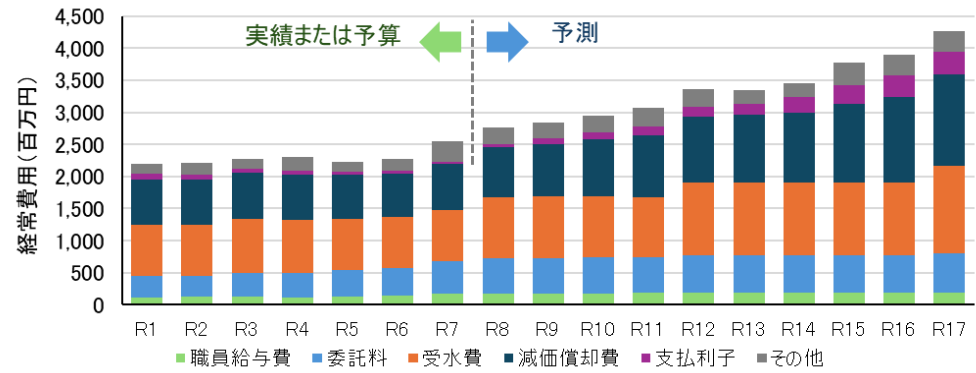
計画事業		R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
水道	東部浄水場及び中部浄水場更新事業										
	西部浄水場更新事業										
	基幹管路・重要管路更新事業										
下水道	浸水対策事業										
	雨水新設事業										
	汚水新設事業										
	耐震化対策事業										

★図・グラフ内の「R○」表記は、すべて「令和○年度」を意味します。

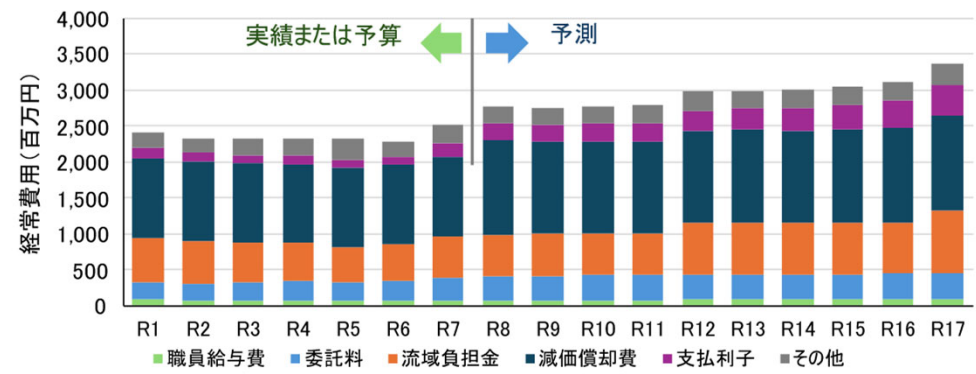
6. 財政収支の見通しと施策

水道事業と下水道事業の両方において、今後は浄水場の更新や浸水対策などの大規模な建設改良事業を控えているため、経費が増加する見込みです。また、損益の悪化や資金不足の懸念もあります。

このような状況を踏まえ、経費のさらなる削減に努めるとともに、将来的に安定した事業運営を確保するため、水道料金および下水道使用料の見直しについても引き続き検討していく必要があります。



図【水道】維持管理費(経常費用)の見通し



図【下水道】維持管理費(経常費用)の見通し

上下水道事業を安定して続けていくためには、料金・使用料で必要な経費をまかなえる状態(=料金回収率・経費回収率100%以上)を維持することが重要です。また、老朽化した施設を計画的に更新・修繕していくための資金を積み立てる必要があります。さらに、地震などの災害に備え、1年分の収益に相当する資金を内部に確保しておくことも大切です。

加えて、企業債(借入金)への過度な依存を避け、財政の硬直化を防ぐためには、企業債残高比率を適正な水準に長期的に保ち続けることも重要です。

7. 進行管理

事業の進行管理にあたっては、施策の進捗を定期的に評価し、柔軟な見直しを行う体制を構築します。上下水道事業のPDCAを機能させるため、マネジメントサイクルとメンテナンスサイクルを連動させ、計画的かつ効率的な事業推進を図ります。

さらに、定期的な評価に基づき施策の改善策を協議・実施し、持続可能な上下水道事業を目指します。

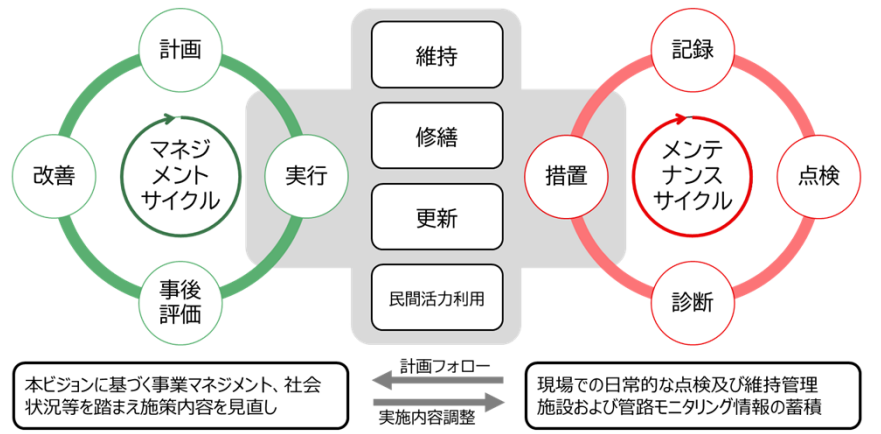


図 マネジメントサイクルとメンテナンスサイクルのイメージ

上下水道事業の
主な財政対応施策

- ・水道料金及び下水道使用料の計画的改定による財源の確保
- ・老朽化施設及び設備の計画的な更新によるコスト平準化
- ・内部留保資金及び企業債(借入金)の適正な管理